



大人気の「無添加 平銅プリン」。敦さんのお父さんが打つ手打ち蕎麦や、薬膳カレーがいただけます
 オクムサ・マルシェ (HP)
<https://okumusamarche.com>

柔らかな日差しが差し込む越生町のカフェ「オクムサ・マルシェ」。オーナーの浅見敦さんがUターンを決意し2014年に開業。地元野菜はもちろん、越生町特産の梅や柚子を使ったメニューを提供し、奥武蔵の自然食材の魅力が堪能できる人気カフェ

として今では地元だけでなく遠方からも訪れる人が増えています。もともとデザイナーとして東京で勤務していた敦さん。お店に関連する制作物も自分で手がけています。奥さんの洋子さんとともに久しぶりに地元に戻り生活を始める、以前住んでいたころは当たり前すぎて気にしなかった朝の鳥の声、川のせせらぎなど本来の自然の姿を再認識し、自分が生まれ育った土地がいかに恵まれていたかを実感。「越生町は地形の入り組んだ土地だからこそ、奥行きのある自然の風景が楽しめます。空気もきれいで水も

念願のカフェをオープン！



[越生町] 浅見敦さん 洋子さん 樹くん

カフェの建物は友人の建築士と相談してリノベーション。陽の光が差し込む大きな窓からは、季節ごとの奥武蔵の風景が楽しめます。二階部分では展示スペースとして竹細工などの作家の作品も販売。

「自然あふれる環境で暮らしたい」「大好きなことを仕事にしたい」「自分のライフスタイルをちょっとだけ変えてみたい」ここでは実際に埼玉県に移住してきた4組の家族をご紹介します。移住してきた理由や新しく始まった、何気ない毎日のことなどを、埼玉ぐらしを楽しんでいる人に聞いてみました。



地元の人たちとの関わりも、日々の生活の中で楽しんでいます！

豊富。お店づくりでは、自然と一体化した空間を目指しています。越生町に来た方にリラックスしてもらえるところを作っていきたいですね」越生町には東武鉄道やJRの駅もあり、「利便性もあるのに、ちょっと行くと本当に自然が豊か。こんな身近な田舎も珍しいと思います」と笑う敦さん。町外でのイベントにも積極的に参加するなど活動の幅を広げて埼玉での暮らしを楽しんでいます。

家族のじかん



[飯能市] 遠藤拓耶さん 望さん 春翔くん 美羽ちゃん 愛翔くん

移住前と変わらない都内の職場に車通勤する遠藤さん。生活基盤を崩すことなく、自分たちが一番楽しめるライフスタイルを実践しています。

子どもたちを自然の中で育てたい

子どもたちは元気いっぱい！いつも外で走り回っています



「とにかくアウトドア好きです！」と話すのは、2018年に飯能市に移住してきた遠藤拓耶さん。移住前は神奈川県に住みながら都内に通勤し、妻である望さんとともに三人の子育てをしていました。ある時、飯能市の移住促進制度「農のある暮らし 飯能住まい」をウェブサイトで発見。移住を即決して翌年には念願の自然あふれる土地での生活を始めてしまったといいます。「子どもたちを育てるのに、自然の力を借りたかった。実際彼らの遊びっぷりをみると、本当に移住してきてよ

かったと思っています」と語る拓耶さん。移住したことによるうれしい効果は他にも。「大人もいる夏まつりや、町内の運動会などに子どもたちも一緒に関わることで、自然と大人との付き合い方を学んでいってくれます。挨拶をする、お礼を言う、根本的なことだけど、大切なことがコミュニケーションの中で育まれていくのを実感しています。」家を建てた場所は飯能市が移住を促進している区域で、近年遠藤さんをはじめ、若い家族の移住者が増えてきており、近所の家族と庭でバーベキューをすることも。家族全員でのんびりと、そしてパワフルに飯能ライフを満喫しています。

無垢の木を使った、あたたかみで過ごしやすい家



2019年5月にときがわ町に移住してきたばかりの青木夫妻。通称「野あそび夫婦」として、ときがわ町でキャンブ民泊NONIWA（のにわ）を営んでいます。「キャンプ場の管理者として、お客さまに各々のスタイルのキャンプを楽しんでいただいています」と語る青木夫妻。ご主人の達也さんは、現在も県内の企業で会社員を続けながらキャンプインストラクターの資格を取得。NONIWAでは、本格的なキャンプ用品も気軽にレンタルすることがで



借りている一軒家の内装は、オーナーが秩父から古民家を移築してきたもの



【ときがわ町】
青木達也さん
江梨子さん

夫婦共通の趣味としてずっと楽しんできたアウトドアで、他の人たちにも楽しんでもらいたい。そんな思いから始まった野あそび夫婦の活動は、SNSや動画配信でみる事ができます。
野あそび夫婦HP
<https://noasobifufu.com>

アウトドアを通じて地域を楽しむ



地元食材を使った朝食を三波深谷でいただく「ときがわぼっかり食堂」も開催しています

き、初めての人のためのキャンプ教室やダッチオープン教室などのイベントも開催しています。
妻の江梨子さんも以前は都内で映像制作ディレクターと

して多忙な日々を送っていたそうです。仕事が忙しく、休みもあまり取れない毎日のなかで自分のライフスタイルを見つめ直していたところ、移住情報の検索で見つけたのがときがわ町。何度か通ううちにすっかり町に魅せられた二人は、だんだんと地域の人も仲良くなり、今では町の観光PRにも関わるほど。SNSや動画配信などを通して町の魅力を発信し、移住を考える人ときがわ町をつなぐ重要な架け橋としても活躍しています。



【秩父市】
細野昌行さん かの子さん
蒔結ちゃん
ドルチェ バディ
リボン

「自宅は武甲山の中。いろいろな動物もてきますよ!」と語る昌行さん。家族の犬たちも、のびのびと暮らしています。
ふくくるしよくどう
秩父市永田町5-29
0494-26-5668
水曜定休（火曜は昼のみ）
※詳細は店舗にお問い合わせください。

移住家族がオープンした地域に愛される食堂



地元の人が手作りする小物を店内で販売。ここから新しいコミュニケーションが生まれます



秩父を覆い尽くす雲海をイメージした一番人気の「雲海麻婆」

3年半前に、空き家バンクを利用して東京の立川市から秩父に引っ越してきた細野さん一家。自宅は武甲山の山の中にある中古物件を購入し、秩父市街地で自らオープンさせた「ふくくるしよくどう」に通っています。中華、和食で料理人として修行を積み、お弁当屋さんを営んでいた昌行さん。娘の蒔結ちゃんの喘息のことや、ずっと一緒に暮らしている犬たちのことを考え、家族にとってより良い環境を求め、秩父への移住を決めたと言います。

ん地域の人たちとの距離が縮まっていくのを感じました」と話すかの子さん。また、秩父が舞台になったアニメのファンや、ロードバイクの旅行者などのネットワークで、ふくくるしよくどうが立ち寄りスポットとして広まったこともあり、遠方から訪れるリピーターも多いそう。
小学校までは歩いて1時間強かかりますが、最近はずっと走り回った蒔結ちゃんも元気に走り回る姿に、両親も目を細めます。求めているライフスタイルの中でプライベートも仕事も楽しむ細野さんお店には今日もみんなの笑顔があふれています。